Our Mission

教育に変革を、子どもたちに生きる力を。

世の中には、学力や所得、地域の格差などによって十分な教育を受けることができない
子どもたちがいます。私たちはそうした子どもたちにも、ひとりひとりに合った新しい学習体験を届けます。
この学習体験を通じて、子どもたちは、「大人になっても役に立つ真の学力」と
「努力をすれば結果が出るという自信」を身につけることができます。

私たちはこれらを実現するために、
新しい学びの形を、学校や塾、その他の教育機関と共に築いていきます。

株式会社すららネット

東京都千代田区内神田 1 丁目 13 番 1 号 豊島屋ビル 4 階
TEL 03-5283-5158　**FAX** 03-5283-5159　https://surala.jp

すららネット　https://surala.jp

IMPACT MANAGEMENT REPORT 2020

2020年度活動報告書

株式会社すららネット ｜ **SuRaLa Net Co., Ltd.**

May, 2021

ご挨拶 ── 代表取締役 湯野川孝彦

株式会社すららネットは、「教育に変革を、子どもたちに生きる力を。」を企業理念とし、国内では AI を活用した ICT 教材「すらら」を約 2,200 校＊の塾、学校等に幅広く提供しています。また海外では、小学生向け ICT 算数教材「Surala Ninja!」を提供しています。発達障がいや学習障がい、不登校、経済的困窮世帯を含む子どもたちにも学習の機会を提供するなど教育課題の解決を図ることで成長を続け、代表的な EdTech スタートアップ企業として 2017 年に東証マザーズに上場しました。

＊2020 年 12 月末現在

このたび、当社事業がどのような社会課題を解決し、どのような成果（アウトカム）を目指すのかについてロジカルに見える化すべく、インパクト評価への取り組みを始めました。当社事業がもたらす社会的インパクトとして「不登校」「発達障がい・学習障がい」「貧困」「低学力」の 4 つの社会課題を取り上げ、それらに対し定性・定量の両側面から評価を試みることとしました。インパクト評価へのチャレンジは、IT ベンチャー企業としては極めてユニークで新しい取り組みだと言えるでしょう。

代表取締役 **湯野川 孝彦**

「すらら」を国内外に拡げることで、世界中のすべての子どもたちに高品質な教育を安価に受けられる機会を提供することにより、さまざまな教育格差の問題の解決を目指してまいります。

すららネットとインパクトマネジメントについて

すららネットの企業理念

世の中には、学力や所得、地域の格差などによって十分な教育を受けることができない子どもたちがいます。すららネットはそうした子どもたちにも、一人ひとりに合った新しい学習体験を届けます。この学習体験を通じて、子どもたちは「大人になっても役に立つ真の学力」と「努力をすれば結果が出るという自信」を身につけることができます。私たちはこれらを実現するために、新しい学びの形を、学校や塾、その他の教育機関とともに築いていきます。

インパクトマネジメントについて

ESG や SDGs の取り組みに代表される、持続可能な社会の構築への関心が世界的に高まる中、今や企業もその担い手としての役割を期待されています。すららネットはこれまで、国内外の事業を通じ、SDGs の達成目標「貧困をなくそう (SDG#1)」「すべての人に健康と福祉を (SDG#3)」「質の高い教育をみんなに (SDG#4)」「ジェンダー平等を実現しよう (SDG#5)」に積極的に取り組んできました。今回すららネットは、事業の評価にインパクトマネジメントの手法を取り入れることで、事業が生み出す社会への正のインパクトをわかりやすく表現することに取り組みました。

事業活動が社会や環境に与える成果を計測・評価し、継続的に事業を改善することでその成果を高めていくことをインパクトマネジメントと呼びます。具体的には、事業が目指すアウトカム（成果）とその実現に向けた戦略を「ロジックモデル」＊で可視化した上で、実施状況をモニタリングし、その分析結果を意思決定や利害関係者への報告に活用することで、Plan-Do-Check-Action のサイクルを回していきます。すららネットは今回、このインパクトマネジメントを実施しそれぞれの課題の解決までの道のりを可視化することにより、事業が社会にどのような効果を与えたかを、定量的・定性的に可視化し把握することを可能にしました。売上や利益といった経済的価値に加え、事業が生み出した社会的価値を明らかにすることで、すららネットの企業価値をさらに高めていきたいと考えています。

＊ロジックモデルとは、ある施策がその目的を達成するに至るまでの論理的な因果関係を明示したもの

すららネットが解決したい社会課題と解決までの道のり

すららネットは、現在子どもたちが抱えているさまざまな困難が、その子どもたちの将来に、また世代を超えて次の世代に続く可能性を持つという負の連鎖を断ち切ること、さらにその先の格差を是正することに貢献したいと考えています。そのためには、子どもたちが将来経済的に自立することが必要であり、それには二つの道筋があると考えています。一つ目は、子どもが学力などの「認知能力」を高めること、二つ目は、子どもが問題解決能力や協調性、自律性などの「非認知能力」を高めることです。「認知能力」「非認知能力」ともに「自分はやればできる」という感覚を養うことで生まれ、自信や成功体験を起点に育つ能力であると考えます。「すらら」は、義務教育を受けている子どもに等しく与えられている「学習」という機会を通じ、子どもの成功体験の蓄積を支援することができ、そのことが社会的に大きなインパクトを生むと考えています。

すららネットが提供する ICT 教材「すらら」は、学習塾、学校、家庭など幅広い場面で使われています。利用者の中には、さまざまな課題を抱える子どもとその家族がいると認識しています。すららネットは「不登校」「発達障がい・学習障がい」「貧困」「低学力」などの困難や課題に直面している子どもとその家族に貢献したいと考え、これら課題を抱える子どもやその家族に与えるインパクトと、そのインパクトを創出するそれぞれの道筋について検証し、本インパクトマネジメントレポートで示すことを試みました。

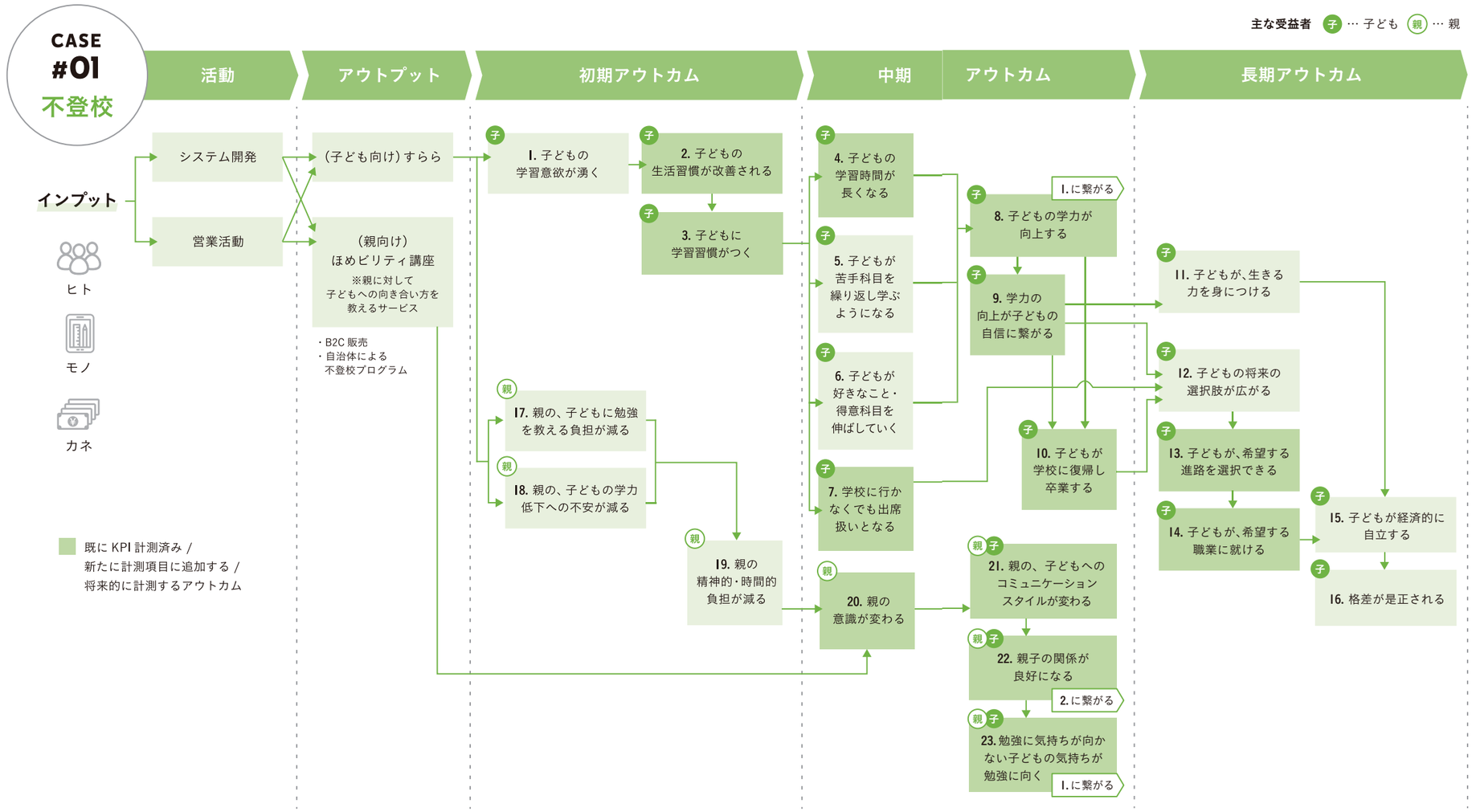
まず初めに、すべてのロジックモデルの後半に共通する格差是正までの道のりについて紹介します。子どもは、学習を通じ成功体験を積み重ねる（「認知能力」の向上）ことにより自信をつけ、さまざまなことに取り組むようになります（「非認知能力」の向上）。その結果、希望する進学先や進路を自ら考え選択することが可能となり、将来的に経済的に自立した大人になります。このような大人が増えることが、結果として社会における格差の是正の実現に貢献すると考えます。

書籍をきっかけに幅広く知られるようになった「GRIT」*の以下の要素が子どもの将来の自立に非常に重要であると考えます。

この 4 つは数値化が難しいといわれる「非認知能力」を構成する要素で、後天的に獲得することが可能な能力であるといわれています。

学年にとらわれずに学べる「無学年方式」、アニメーションキャラクターが教える初めて学ぶ単元でも楽しく取り組めるレクチャー、苦手分野を AI が自動判定し、自分に必要な単元を繰り返し学べるドリルといった特徴を備える「すらら」を続けることにより、子どもは「認知能力」である学力を向上させるだけではなく、「非認知能力」の重要な要素である「やり抜く力」を培い、将来経済的に自立できる力を身につけることとなります。「すらら」がその一助になれば大変嬉しく思います。

＊「GRIT やり抜く力」アンジェラ・ダックワース著 / ダイヤモンド社



不登校の子どもとその親へのインパクト

「すらら」は、アニメキャラクターが教師役として授業を行うため、人の目を見たり、人と会話をすることが苦手な子どもでも気後れすることなく勉強ができる状況を作り出します。勉強に取りかかれなかった期間の遅れは「無学年方式」でさかのぼり、独自の体系学習により効率よく学校の授業に追いつくことができます。さらに「すらら」は文部科学省「不登校児童生徒が自宅において ICT 等を活用した学習活動を行った場合の指導要録上の出欠の取扱いについて」*における ICT 教材としての要件を満たしており、「すらら」での学習を学校の出席扱いとすることができます。

すららネットではまた、不登校に起因する悩みの改善には良好な親子関係が非常に重要であると認識しています。そのため、認知行動療法を取り入れた保護者向け講座「ほめビリティ講座」を独自に開発し、子どもに対する保護者の理解を深めるなど、円滑な親子関係の構築にまで踏み込んだサポートを行っています。子どもが「すらら」で学習することにより、親が子どもに勉強を教える負担が軽減し、さらに親が「ほめビリティ講座」を利用することで親と子どもの関係が良好になることは、子どもの学習習慣、生活習慣の改善につながっています。

* 文部科学省 不登校児童生徒が自宅において ICT 等を活用した学習活動を行った場合の指導要録上の出欠の取扱いについて https://www.mext.go.jp/content/1422155_001.pdf

不登校の子どもの KPI DATA

平均学習時間が大幅増加 ※1 ※2

1ヶ月目が 約 **6.0 時間**

12ヶ月目は 約 **7.5 時間** (1.26 倍)

24ヶ月目は 約 **15.3 時間** (2.58 倍)

出席扱い制度認定数 ※3

すらら利用が

132 / 190 件 (認定率：約 70%)

また、保護者のほめビリティ講座参加前後における「子育てで出来るようになったこと」の変化を 10 段階評価でヒアリングしたところ、①「子どもの行動の客観的分析」、②「できることを認め褒める」、③「子どもの気持ちの理解」がそれぞれ 10 段階中、平均で 7 得点、④「子どもと一緒にいるときの楽しさ」が平均で 8 得点のアンケート回答となった。

※1. 2019 年 1 月から 2020 年 12 月までの家庭学習サービス利用者で不登校生 1,596 名の学習データから算出。

※2. 2020 年は新型コロナウィルスの影響で自宅学習時間が促進された可能性がある

※3. 2019 年 1 月から 2021 年 2 月までに出席扱い制度認定の有無を計測できた件数のみを集計

※4. 10 段階評価で参加前後の変化の度合いを集計。1 は参加前と変化なし、10 は参加前よりとても出来るようになった

COLUMN #1

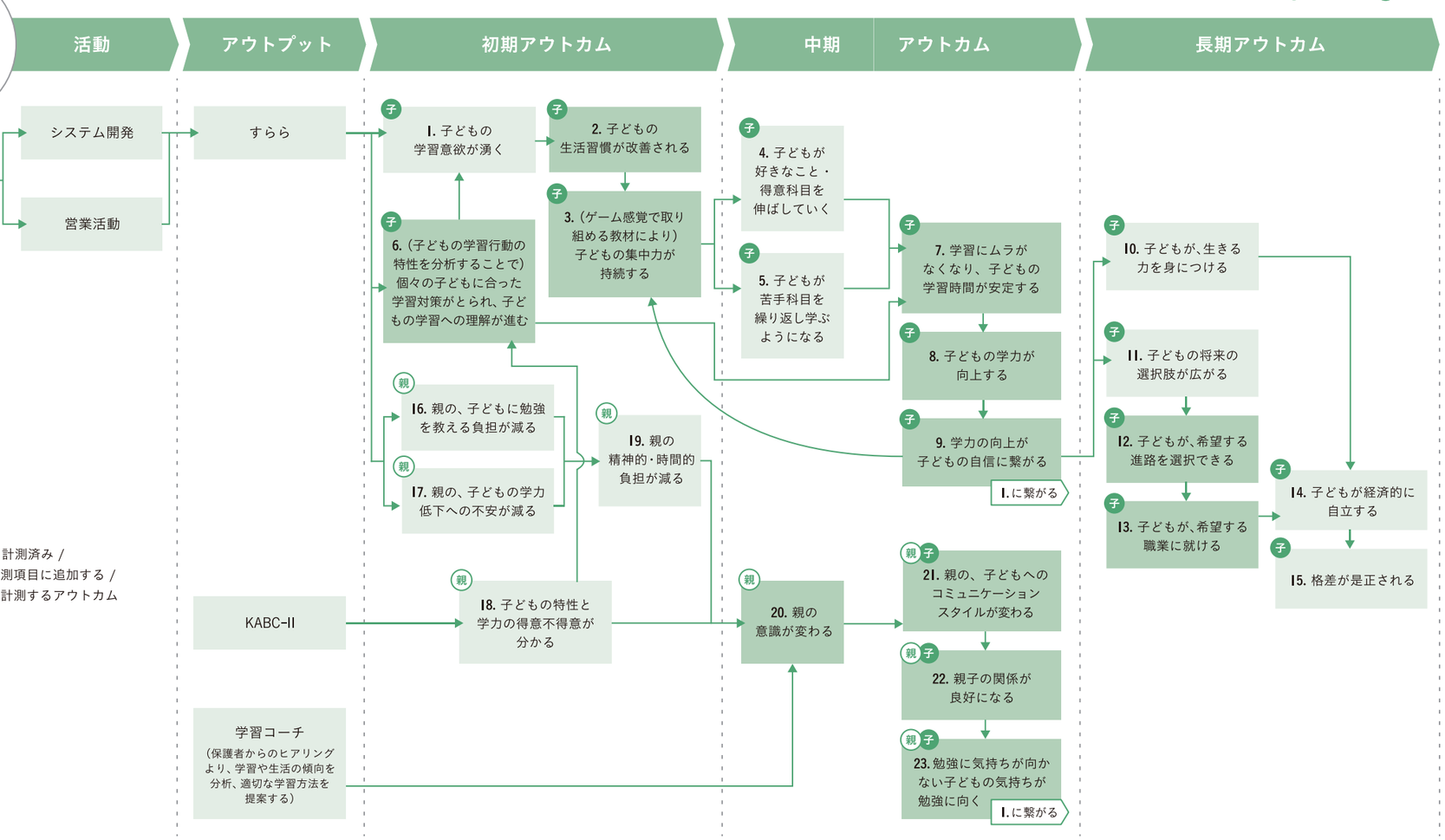
不登校の子どもが「すらら」で学習するタイミング

子どもが不登校となる理由は人間関係や学習の遅れなどさまざまです。不登校の初期は、子どもの中で理性（学校に行かないといけない）と本能（学校に行きたくない）のギャップが生じ、罪悪感や自己嫌悪感の葛藤が生じて身動きがとれない状態となります。そして、保護者も同様にストレスを感じています。

この時期に無理に学習に取り組むことは効果につながりません。不登校という状況を受け入れることができ、子どもの気持ちが学習に向いてきた時に初めて「すらら」は力を発揮します。学校を休んだ期間、学習できなかった期間のさかのぼり学習をどこからでも始められ、自分に合った学習を実現できるからです。不登校をきっかけに「すらら」で学習している生徒の多くが「毎日取り組む時間を決めて『すらら』で学習した」と話しています。取り組んだ単元や問題の詳細、学習時間、掲げた目標に対する達成率などがすべて記録される「すらら」だからこそ、自宅学習のペースメーカーとして生徒、保護者に寄り添うことができるのです。子どもの気持ちが勉強や学校復帰に向いてきた時に、必要な学習に取り組むことができるよう、すららネットはサポートしています。

CASE #02
発達・学習障がい

主な受益者 子 … 子ども 親 … 親



既に KPI 計測済み /
新たに計測項目に追加する /
将来的に計測するアウトカム

発達障がい・学習障がいの子どものKPI DATA

平均学習時間は

1ヶ月目が 約 5.8 時間

12ヶ月目は 約 5.5 時間

24ヶ月目は 約 6.0 時間

と学習量をキープした ※1

保護者のほめビリティ講座参加前後における「子育てで出来るようになったこと」の変化 ※2

子どもの行動の客観的分析 … 平均 7/10 点

できることを認め褒める … 平均 7/10 点

子どもの気持ちの理解 … 平均 7/10 点

子どもと一緒にいるときの楽しさ … 平均 8/10 点

※1. 2019 年 1 月から 2020 年 12 月までの家庭学習サービス利用者で発達障がいのある生徒 3,163 名の学習データから算出

※2. 10段階評価で変化の度合いを集計、1は参加前と変化なし、10 はとても出来るようになった

発達障がい・学習障がいの子どもとその親へのインパクト

「すらら」は、発達障がい・学習障がいの子どもが通う放課後等デイサービス*において幅広く活用されています。また、家庭学習者にも発達障がい・学習障がいの子どもがいます。発達障がい・学習障がいの子どもには、一人ひとりの特性を理解し、それぞれに適した学習方法を提示することが重要です。「すらら」では AI が子どもの学習を分析し、一人ひとりに合ったレベルの問題を出題したり、苦手分野を判定して必要な学習を提示します。また、家庭学習で「すらら」に取り組む場合、「すららコーチ」が保護者を通じ学習をサポートします。「すららコーチ」が子どもの学習習慣や特性に応じた学習環境の整備等を提案することで、子どもの学習意欲が安定し、学力向上につながります。保護者が子どもの特性を理解し、適切な環境や学習手段を提供することは、学力向上の大きな鍵となります。

さらに、KABC-II（子どもの特性理解と学力の得意不得意を明らかにするための知能検査の一種）と「すららコーチ」を併用することで、保護者が子どもの特性を理解し、その子どもに適したコミュニケーションや学習環境を整えられるようになり、今まで勉強に向かうことが難しかった子どもの気持ちが、学習に向かうようになります。

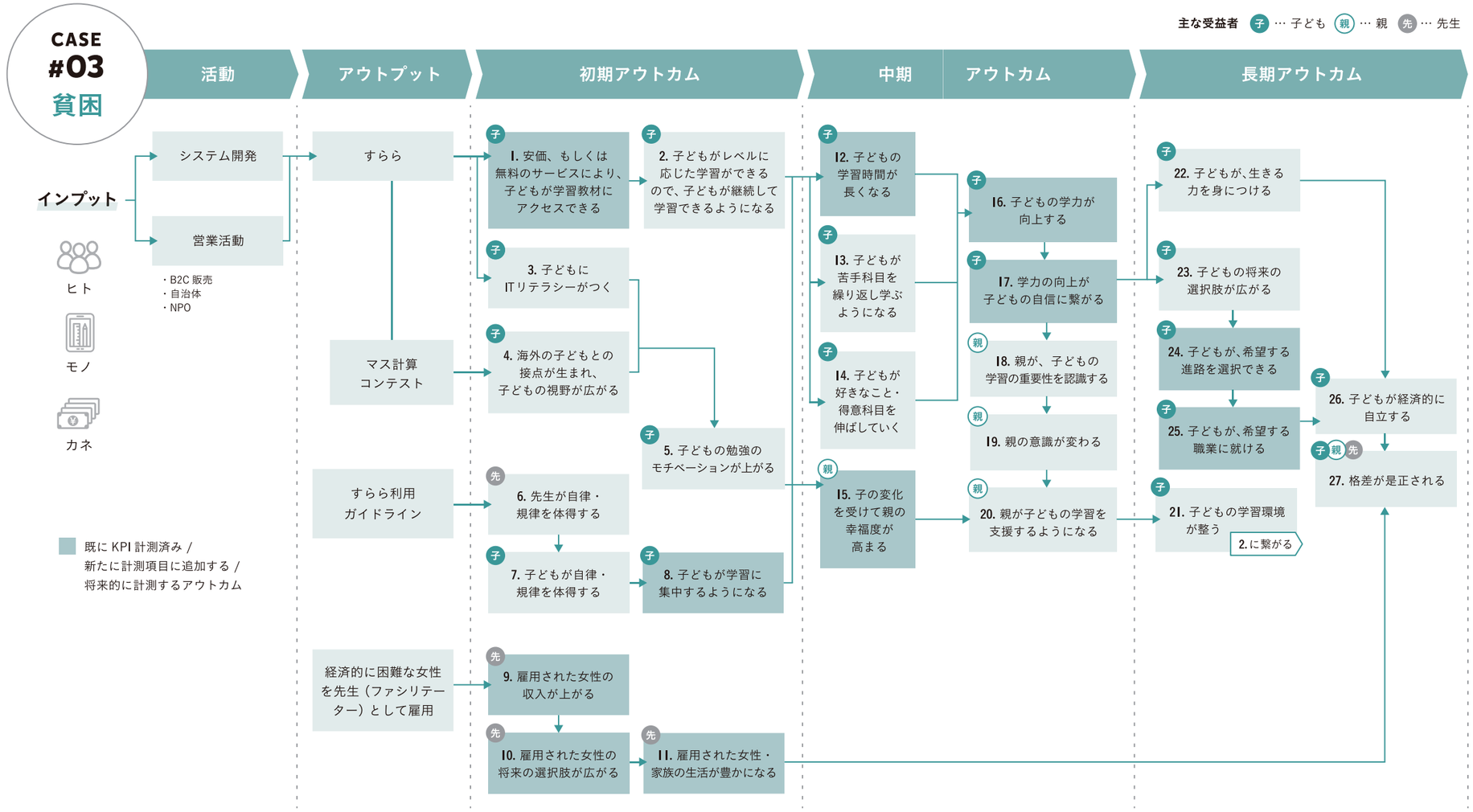
＊放課後等デイサービス：障がい児が生活能力の向上のために必要な訓練を行い、及び社会との交流を図ることができるよう、当該障がい児の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて適切かつ効果的な指導及び訓練を行う施設

COLUMN #2

なぜ、「すらら」が発達障がい児の学習に効果的なのか

発達障がいのある子どもは、高い知能を持つ場合も多いものの、得意不得意の傾向が顕著なため学校の集団教育では対応しきれない、周囲とのコミュニケーションが難しいことが学習意欲の妨げになるなど、学校生活や学校での勉強につまずきを感じることがあります。そういった子どもの学習をサポートするため、すららネットは「すらら」小学校低学年版を発達障がいの専門機関「子どもの発達科学研究所」と共同開発しました。

「すらら」は学年にとらわれない「無学年方式」を採用しており、学年を横断して体系的に学習することができます。脳科学の研究によると、記憶力は言語を手がかりに保持する力と視覚を手がかりに保持する力からなり、両方の力を使うことにより覚えたことを保持しやすくなるということがわかっています。「すらら」では「文字」「音声」「イラスト」を結びつけて学び、忘れないうちに演習問題（ドリル）に取り組むことができるため、理解を定着させることができます。見る、聞く、書く、読む、話す、といったさまざまな感覚を使ってゲーム感覚で学習に取り組むことにより、記憶に残りやすく、時間を忘れて一人でも楽しく集中して学習できるという特長があります。



貧困の子どもの KPI DATA

海外の貧困層の利用者数

291 名 ※1 ※2

※1. 経済的に困難な家庭に学習機会を提供している海外の NPO 団体等に所属する生徒数を集計

※2. 2021年4月時点の利用者数。新型コロナウィルスの影響で JUKU の運営がストップしており減少状況にある

貧困の子どもとその親へのインパクト

すららネットは国内外の NPO 等を通じて、経済的に困難な家庭に学習機会を提供しています。それまで学習に課題を感じていた子どもも「すらら」や「Surala Ninja!」によって一人ひとりのレベルに応じた学習に取り組めることから、継続して学習を続けやすくなり、学力の向上、さらに子どもの自信につながっていきます。

経済的に困難な家庭の子どもは、パソコンに触れるのが初めてという事も少なくありません。すららで学習することにより、教育格差の原因となる IT リテラシーのギャップを縮めることができます。インドネシアやスリランカにおいては、自国外に出たことのない子どもが「すららマス計算コンテスト」を通じて他国の存在を身近に感じ刺激を受けるという現象も見られます。

また、保護者が、学力の向上が子どもに良い変化をもたらしていることを実感することで、それまで子どもに十分な学習環境を用意することに積極的でなかった保護者が、子どもの学習を支援するといった行動変化にも繋がっています。

すららネットではさらに、スリランカにおける学習塾の運営において、マイクロファイナンス組織である「女性銀行」と提携し、子どもを指導するファシリテーターとして、貧困地域の女性を積極的に採用し、将来的に女性やその家族が属するコミュニティにおける格差縮小への貢献も目指しています。

COLUMN #3

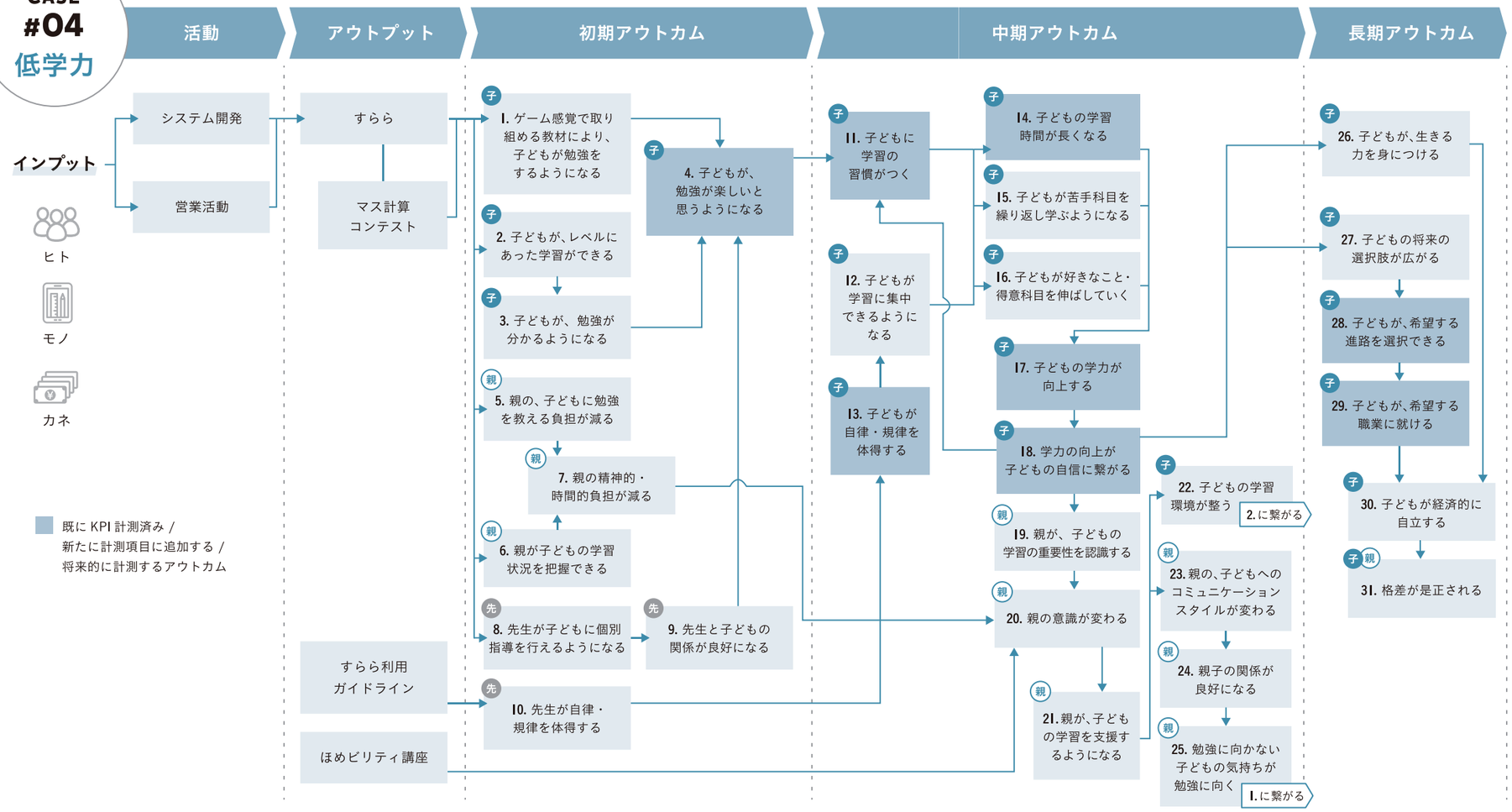
すららネットの海外での事業展開について

すららネットは、2014 年から途上国における取り組みを開始しました。スリランカでは、低所得層の家庭の子どもたちに向けた算数教室「Surala JUKU」を展開、さらに孤児や DV にあった子ども達などを受け入れている NGO「SOS 子どもの村」を通じて、子どもたちに小学生向け ICT 算数教材を提供しています。スリランカにおける就学率は 90％以上と高いものの、内戦の影響もあり教員のレベルにはばらつきがあります。このような状況により、学校以外で学習支援を受けることができない子どもは勉強ができないまま放置されてしまいます。

すららネットは、途上国において大多数を占めるこの層の子どもたちが基礎学力を獲得することが、国の成長、発展に繋がると信じています。「Surala Ninja!」を導入した小学校に対し実証事業*を行った結果、計算力テストの点数や計算スピードが飛躍的に向上したことが分かっています。

* インドネシア共和国 産学連携による e ラーニングを活用した子どもたちの数学の学力達成度強化のための普及・実証事業業務完了報告書
https://openjicareport.jica.go.jp/245/245/245_108_12301180.html

CASE #04 低学力



低学力の子どもの KPI DATA

国内のすらら導入塾の低学力生徒数

8,939 名 ※1

国内のすらら導入学校の低学力生徒数

25,919 名 ※2

国内のすらら家庭学習サービスの低学力生徒数

2,041 名 ※3

※1. 2020 年 12 月期の生徒 ID 数 24,866 を、入塾後 1 ヶ月以内にすらら学力診断テスト (期間限定版) を受けて偏差値 40 以下だった生徒 ID 数の割合 35.8% で割り戻して算出。

※2. 2021 年 3 月時点の生徒 ID 数のうち、インターネットで公表されている偏差値 40 以下の導入学校の生徒 ID 数を集計

※3. 2020 年 12 月時点の生徒 ID 数のうち、入会時の学習目的に「学校の補習のため」を選択し、現学年の前の学年の学習からスタートした生徒 ID 数を集計

低学力の子どもとその親へのインパクト

「すらら」を学校、学習塾、家庭学習等で利用する学習者の中には、学力が低い子どもが多くいます。著名声優によるアニメーション形式の授業や、ゲーミフィケーション機能を活用した学習体験、一人ひとりに合わせたアダプティブな学習により、学力が低い子どもも勉強がわかるようになり、楽しく学習を継続できるようになります。学習習慣がつき学力の向上が見られると、子どもは自信を持ち、学習以外に対しても意欲的になります。

海外においても同様の効果が現れています。「Surala Ninja!」は日本のアニメやゲームに関心のある子どもたちの興味を喚起する教材であることに加え、数を数えるといった最も基礎的なレベルの概念理解から一人で取り組むことができるため、学習に関心が向かない子どもでも、初めて学習に取り組む子どもでも、小さな成功体験を積み重ねながら学習を進めることができます。「Surala Ninja!」は教員にも良い影響を与えます。一クラスあたりの生徒数が多い途上国では特に、先生が一人ひとりの理解度に合わせて授業を行うことは難しい状況です。「Surala Ninja!」を導入することにより、教員は特にサポートが必要な子どもに時間を使うことができます。海外で「Surala Ninja!」を導入する際には、すららネットが提供するガイドラインに沿ってクラスを運営しています。このガイドラインには、日本のマナーや規律という要素が含まれており、先生がこのガイドラインに従って「Surala Ninja!」のクラスを運営することにより、授業開始時のあいさつや授業終了後の片付けなど、子どもの学習にメリハリがつき学習に集中しやすい環境を作り出せるという利点があります。

COLUMN #4

日本式教育と「Surala Ninja!」

スリランカ、インドネシア、フィリピンなどで「Surala Ninja!」を導入する際には必ず、教員（ファシリテーター）の研修を数日かけて実施します。この中で「Surala Ninja!」で何ができるのか、どのように子ども達に取り組ませるのかについて先進事例を伝え、ファシリテーター自らが教材に取り組む時間を確保するとともに、クラスルームマネジメントについて一緒に考えます。

特に、始業前の手洗い、教室への入退場、始業終業時のあいさつについて紹介し、導入する学校ではどのように実施するかを一緒に考えます。日本の学校では当たり前にみられるあいさつや整理整頓、手洗いなどは、途上国においてはあまり実施されていません。途上国において手洗いの習慣は日本ほど確立されていなかったことから、感染症拡大予防にも繋がる習慣として評価されています。整理整頓の習慣づけは、自律学習への第一歩として保護者にも教員にも喜ばれています。貴重な学習環境を大切に扱い、真摯に学習に取り組む姿勢も、「Surala Ninja!」での学習を通じて育んでいます。なお、このような活動は日本式教育として、海外で高い評価を受けています。

COLUMN #5

不登校と将来の低賃金の関係

国内における不登校の児童生徒数は増加傾向にあります。文部科学省調査*によると、小・中学校における不登校児童生徒数は 181,272 人、不登校児の割合は 1.9% と過去最多となっています。

最近では、不登校が将来の非就業もしくは非正規雇用につながり、その先の所得格差につながるという調査結果も発表されています。文部科学省が行った調査**によると、2006年に中学 3 年生で不登校だった約 1,600人を対象に 5 年後の 2011 年時点（20 歳前後）の状況を調べた結果、就業していたのは全体の 53.4% で、そのうち正規雇用は全体の9.3%でした。この値は、平成28 年の国民生活基礎調査***の、高卒で正規雇用されている男女（男：75.4%、女：53.8%）の割合と比べて極端に小さく、不登校だったことが将来の就業形態に影響を及ぼしていることがわかります。

文部科学省が、家庭に引きこもりがちで十分な支援を受けられない不登校の児童生徒に対し、IT等を活用した自宅学習で出席扱いにするという方針を定めたことにより、学校に行かなくても自宅学習を行うことで出席扱いとする事例が増えています。

「すらら」はこの要件を満たす教材です。子どもが「すらら」での学習をきっかけに学力、やり抜く力、自信をつけることにより、進路選択の幅を広げ、希望する進路や職業を選択することができるよう、すららネットは不登校という課題を抱える子どもやその保護者を応援します。

* 文部科学省「令和元年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」https://www.mext.go.jp/content/20201015-mext_jidou02-100002753_01.pdf
** 文部科学省「不登校に関する実態調査報告書」平成 26 年　https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2014/08/04/1349956_05.pdf
*** 厚生労働省「国民生活基礎調査（平成 28 年）の結果からグラフでみる世帯の状況」平成 30 年　https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/20-21-h28_rev2.pdf

COLUMN #6

世帯所得と学力・学習意欲の関係

国立教育政策研究所「平成 25 年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）」*によると、就学援助受給世帯において学力に課題のある子どもが多い傾向があることが明らかになっています。世帯所得と学力は、特に主要教科において比例関係にあることが分かっており、同調査では世帯所得が低いほど国語と算数の正答率が低いとの結果が得られています。小学校 6 年生、中学校 3 年生のいずれの学年段階においても、子どもの国語・算数（数学）の学力と世帯所得には、統計的に有意な関連が認められる結果となっています。

生活保護と低学力の相関関係についても地方自治体の調査**により明らかになっています。低所得世帯の子どもは家庭学習時間がほとんどなく学力に課題を抱えており、将来展望を描きにくいことから、学習意欲が低いという結果が出ています。このように、生活保護世帯をはじめ経済的に困難な家庭の子どもは、学力だけではなく意欲の面でも課題を抱えていると言えるでしょう。

すららネットは経済的に困難を抱える家庭に対し、自治体や NPO 法人等を通じて「すらら」を提供しています。安価もしくは無料で学習教材にアクセスできるようになると、これまで学習に意欲を持てなかった子どもも学習を継続できることによって学力を伸ばし、やればできるという成功体験を積み、意欲面における課題を克服することができると考えています。

* 国立教育政策研究所「平成 25 年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）」https://www.nier.go.jp/13chousakekkahoukoku/kannren_chousa/hogosya_chousa.html
** 千葉県検証改善委員会 (2008)「平成 19 年度『全国学力・学習状況調査』分析報告書」http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/joukyou/h19-02.html

成果指標

● 既に計測している　○ 今回計測項目に追加する　◇ 将来的に計測したい　ー なし

アウトカム	KPI の測定	不登校	発達障がい	貧困	低学力
子どもが学習教材にアクセスできる	アクティブユーザー数	ー	ー	○	ー
子どもの生活習慣が改善される	親へのアンケート	○	○	ー	ー
子どもが勉強を楽しいと思うようになる	子どもへのアンケート	ー	ー	ー	○
子どもに学習習慣がつく	30 日の中で 1 回でもログインした日数	○	○	ー	○
子どもの学習時間が長くなる	すららを使った学習時間（一定期間内の学習時間の合計）	●	ー	●	●
ゲーム感覚で取り組める教材により子どもの集中力が持続する	すららのログイン時間	ー	●	ー	ー
個々の子どもに合った学習対策がとられ、子どもの学習への理解が進む	親へのアンケート	ー	◇	ー	ー
学習にムラがなくなり、子どもの学習時間が安定する	すららを使った学習時間、ログイン頻度	ー	◇	ー	ー
子どもの学力が向上する	すららの学力テストの点数	○	○	○	○
学力の向上が子どもの自信に繋がる	親へのアンケート	○	○	○	○
学校に行かなくても出席扱いとなる	出席状況に関する親へのアンケート	●	ー	ー	ー
子どもが希望する進路を選択できる	-	◇	◇	◇	◇
子どもが希望する職業に就ける	-	◇	◇	◇	◇
子どもが学校に復帰し、卒業する	卒業状況に関する親へのアンケート	○	ー	ー	ー
親の意識が変わる	親へのアンケート	●	●	ー	ー
親の、子どもへのコミュニケーションスタイルが変わる	親へのアンケート	●	●	ー	ー
親子の関係が良好になる	親へのアンケート	●	●	ー	ー
勉強に気持ちが向かない子どもの気持ちが勉強に向く	親へのアンケート	○	○	ー	ー
子の変化を受けて親の幸福度が高まる	親へのアンケート	ー	ー	○	ー
子どもが学習に集中できるようになる	親へのアンケート	ー	ー	○	ー
子どもが自律・規律を体得する	先生へのアンケート	ー	ー	○	ー
先生の収入が上がる（海外）	先生の収入の変化	ー	ー	○	ー
雇用された女性の将来の選択肢が広がる（海外）	先生へのアンケート	ー	ー	○	ー
雇用された女性・家族の生活が豊かになる（海外）	先生へのアンケート	ー	ー	○	ー

INFOGRAPHICS

出席扱い制度 認定率

約 70%

190 件中 132 件

2.58 倍　24 ヶ月目

不登校の子どもの
平均学習増加率時間

291 名

海外の貧困層の
すらら利用者数

36,863 名

国内ですららを利用中の
低学力生徒数

子どもができることを認め、
褒めることができるようになった

受益者の声

不登校の子ども

HSP*が原因で不登校となった中学生徒の高校合格までの道のり

ー Gさん（高校1年生）の保護者

娘は中1の夏休み明けから突然不登校になり、自宅学習教材を探した結果「すらら」にたどり着きました。娘も私もつらい時期に、すららコーチからの温かい励ましのメールに救われました。「すらら」学習管理画面を印刷して学校に提出することで出席扱いが認められ、卒業証書に記載の欠席日数は「0日」となりました。「すらら」による家庭学習のみで希望の高校に合格し、現在は部活や生徒会活動などに充実した毎日を送っています。*HSP：ハイリー・センシティブ・パーソン。視覚や聴覚などの感覚が敏感で、非常に感受性が豊かといった特徴を生得的に持っている人

発達障がい、学習障がいの子ども ①

グレーゾーン中2男子英語が17点UP！基礎学力が徐々に定着

ー Yさん（中学2年生）の保護者

書くことやコミュニケーションが苦手なことから、小学生の時に発達検査を受け、グレーゾーンと診断されました。塾や他の通信教材を試しても、過去に習った単元を遡り学習できないことから、勉強の遅れに焦っていた時「すらら」に出会いました。自分のタイミングで、すららコーチが設計してくれた単元を学習しています。苦手な単元を何度でも反復学習できるので、記憶の定着が難しい子どもにも適している教材だと思います。

発達障がい、学習障がいの子ども ②

ADHD特有の『集中が続かない』を乗り越え高校合格！

ー Iさん（高校1年生）の保護者

息子はADHD傾向があり、自分で学習を進めることが苦手です。アニメのキャラが簡潔に説明してくれたり、ゲーム的な要素もあり勉強に対する敷居が低く感じられたことに加え、すららコーチが学習計画を立ててくれて「今日やること」が明確な点、画面上で当日の学習範囲が今何％終わった等が視覚的に分かり見通しが立てられることから、一定時間集中して勉強できるようになり、無事志望校に合格することができました。

編集後記 ── CFO 古子優樹

当社のきわめてユニークな点は、本業であるICT教材の開発・提供が社会課題の解決に直結することです。社会課題の解決は従来、NPOなど非営利団体の取り組みが中心となってきました。また、民間企業はCSR活動において社会課題の解決を試みてきました。当社は、そのどちらでもなく、本業を通じて社会課題解決に取り組んでいます。

今回、「不登校」「発達障がい・学習障がい」「貧困」「低学力」という4つの社会課題に対し、定性・定量の両側面から評価を試みるプロセスを経験し、当社がこれら社会課題の解決に向けさらなる貢献を続けることができると確信しました。

今後も定点観測を続け公表することを通じ、多くの方々に当社の取り組みを紹介してまいります。

About us

教育に変革を、子どもたちに生きる力を。

すららは2005年に研究がスタートし、英語・国語・数学の各分野における著名講師やeラーニング研究で技術を持つ大学教授などのプロジェクトにより開発を行っている、ゲーミフィケーションを応用した「対話型アニメーション教材」です。
従来の映像授業型eラーニングや問題集型eラーニングとは一線を画す商品として全国で急速に採用され、2012年にはeラーニングアワードフォーラムにて、教育部門最高峰の「日本e-Learning大賞 文部科学大臣賞」を受賞しました。

株式会社すららネットは、上記すらら、及びすらら関連商品の研究・企画・開発と販売、すららを活用した学校・学習塾向けのコンサルティングを行っている会社です。

会社名	株式会社すららネット（英文名 SuRaLa Net Co., Ltd.）
設立日	2008年8月29日
所在地	**本社** 東京都千代田区内神田1丁目13番1号　豊島屋ビル4階 **大阪サテライトオフィス** 大阪市北区角田町1-12　阪急ファイブアネックスビル2F
連絡先	TEL　03-5283-5158 FAX　03-5283-5159
資本金	2億8377万7千円
事業内容	e-ラーニングによる教育サービスの提供および運用コンサルティング、マーケティングプロモーション及びホームページの運営
Website	https://surala.jp